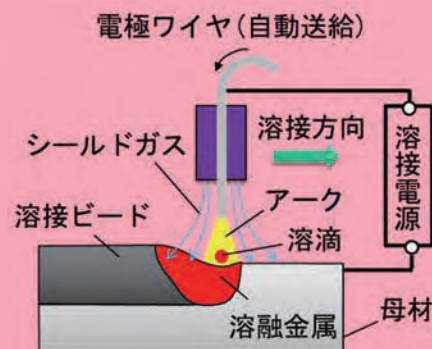


やまいから

Vol.13



- INDEX**
- 2 「スズキ株式会社 専務役員 石井 直己 ごあいさつ」
 - 3-5 「新たな100年に向かって」スズキの新技术への取り組み(その5)
 - 6-7 〈TOPICS〉スズキのニュースリリースから最近のトピックスを紹介します
 - 8-9 業務紹介「デジタルエンジニアリング部の若手技術者たち」
 - 10-11 技術レポート「数理最適化とAIを用いたアーク溶接条件の導出」

スズキ財団ニュース

- 12-13 寺嶋 一彦先生インタビュー「世の中のために得意を生かして挑戦する」
- 14-15 研究室訪問「羽賀 俊雄 大阪工業大学 機械工学科 教授」
- 16 海外研修報告「15th International Conference on Engines & Vehicle (ICE2021)」に参加して
草鹿 仁 早稲田大学 大学院 創造理工学研究科 教授
- 17 研究室便り「青木 岳史 千葉工業大学 先進工学部 教授」
- 18-19 [事業報告] 2021年度(令和3年度)研究者海外研修助成実績
科学技術研究助成の1980年度から2020年度の41年間の実績



<https://www.s-yaramaika.jp/>



いしい なおみ
専務役員 石井 直己 ごあいさつ

社長補佐・経営企画室長

2021年11月13日に英国グラスゴーで2週間に渡り白熱した議論が展開されたCOP26(第26回国連気候変動枠組条約締約国会議)が閉幕しました。気候危機は日常生活で感じるまでに迫っていますが、経済成長と脱炭素のバランス取りに、各国は、自国の利害を超えてまでは動けない世界の現実も露呈しました。COPは1995年から始まった毎年の会議ですが、新型コロナウイルスが、昨年初めて開催中止に追い込んだとの事です。その結果、今年は2年分のストレスがSDGs機運と絡み合い、世界中の人々に社会現象級の課題認識を突きつけました。また、新型コロナウイルスは、我々の日常・普通を見事に蒸発させましたが、同時に、皮肉なことに、人の経済活動・移動の減少がCO₂排出を減少させ、空気もキレイにすることも証明しました。本号が皆様に読まれる2022年2月頃、この激動の世界に、人はどのように変化・進化しているのか、浜松の澄んだ空を見ながら想いを馳せております。

モビリティに関わる技術が、地球規模での社会課題の解決に、怒涛の如く立ち向かい始めました。脱炭素のための電動化・カーボンニュートラル化、交通事故ゼロを目指した先進安全技術の高度化、モビリティを人流・物流の社会システムの一部に組み込み稼働率を上げ、ドライバー・人手不足を解消する試み、などなど。これまでのモビリティの役割とは全く比較にならない、高度で複雑な課題を解決することを期待されています。

技術は、問題を解決して初めて光り輝くもの。目の前で発生している問題から、2030年、或いは2050年に起こる問題を、想像と妄想を駆使して描き、解決に必要な新たな技術磨きを加速する時が来ました。我々の後輩達、子供たちに、サステナブルな未来をしっかりと繋げていくために、人と地球がどう折り合いをつけ、生かし合えるようにするか、大いなる挑戦です。自分も、しっかりと地に足を着けて、一歩先を歩き続けたいと思います。

スズキ株式会社は、大学・高等専門学校・研究機関の皆様方の不断の努力とやままいか精神に敬意を表すると共に、公益財団法人スズキ財団を通じ、皆様の科学技術の革新と技術者育成に少しでも貢献できるよう努めて参ります。今後とも、皆様方からの変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

Let's make the world better & sustainable together!

新たな100年に向かって

スズキの新技术への取り組み(その5)

自動車業界に訪れている100年に一度の大変革は、技術だけでなくビジネスモデルの変革も推し進めています。スズキはCASE技術の開発とともに、よりお客さまに寄り添うべく、活動分野を広げています。今回は、スズキの新しいコネクテッドサービス、農業用電動モビリティ開発の取り組みを紹介します。

スズキの新しいサービス「スズキコネクト」導入

スズキは、車両に様々なデータの送受信を可能とする車載通信機を搭載し、オペレーターサービスやスマートフォンのアプリと通信する、コネクテッドサービス「スズキコネクト」を、昨年12月に発売されたスペーシアシリーズより国内では初めて導入しました。

「スズキコネクト」は、オペレーターサービスやスマートフォンのアプリにより、事故や緊急時に消防・警察への通報をサポートする「スズキ緊急通報」、車両に発生したトラブル解消をオペレーターがサポートする「スズキトラブル

サポート」、遠隔でのエアコン操作などのリモート操作や駐車位置、運転履歴などの確認が可能な「スズキコネクトアプリ」で構成されるコネクテッド技術を活かした新サービスです。

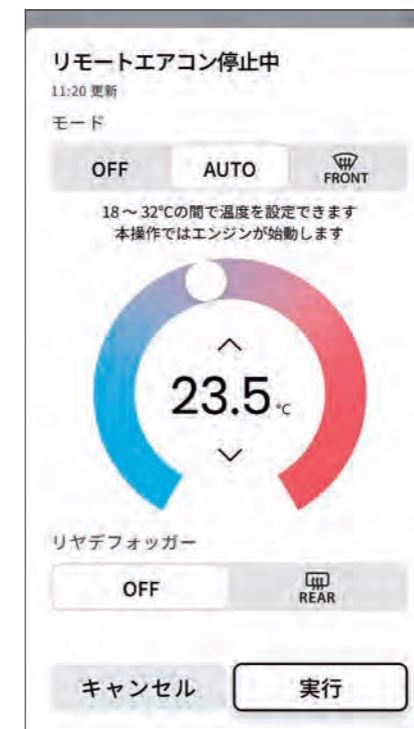
コネクテッドカーから送信される警告灯の点灯状態やメンテナンス情報の共有が可能な「スズキコネクト店」を新設し、お客様により迅速で充実したアフターサービスの提供を可能としました。

スズキはCASEの一つであるコネクテッドの技術を、広範囲かつ有効に活用できるよう車両の開発を行い、スズキ製品をお使いいただくお客様のより豊かなカーライフを実現すべく、今後も取り組んでいきます。

SUZUKI connect



アプリのホーム画面。車両の情報とボタンをわかりやすく配置しました。



離れた場所からエアコンを動作させ、運転前に車内の温度を調節できます。



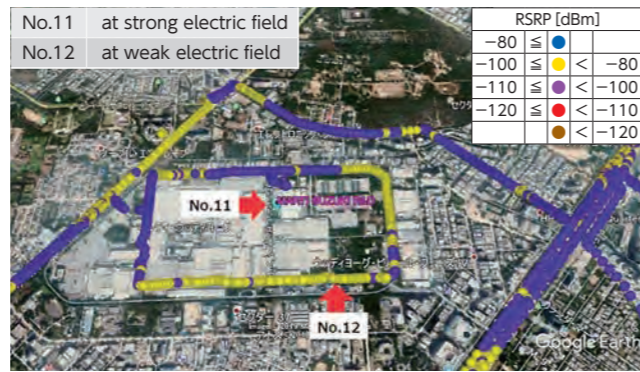
運転履歴機能で日々の運転をふり返ることができ、地図で位置もわかります。

コネクテッド開発のエピソード

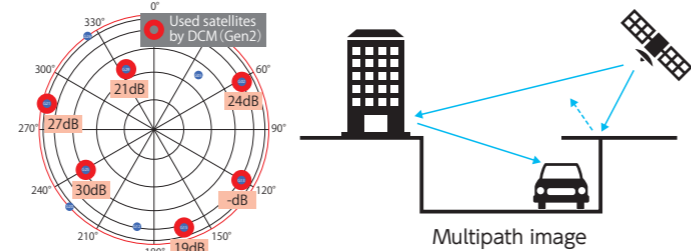
スズキは2018年7月よりインドにて第一世代コネクテッドサービスを提供しており、今回のアジアに搭載したコネクテッドサービスは、第二世代となります。

第一世代は、緊急通報、運転履歴、駐車位置など、車両情報を使った単方向通信(車両⇒スマホ)のサービスだけでしたが、第二世代は、双方向通信(車両⇄スマホ)の技術を使い、ドアロックの忘れやハザードランプの消し忘れ時に、スマホから遠隔でドアロックやハザードランプの消灯ができるようになり、より便利になりました。事前にエアコンをかけておいて、真夏でも気持ちよく出発することができます。

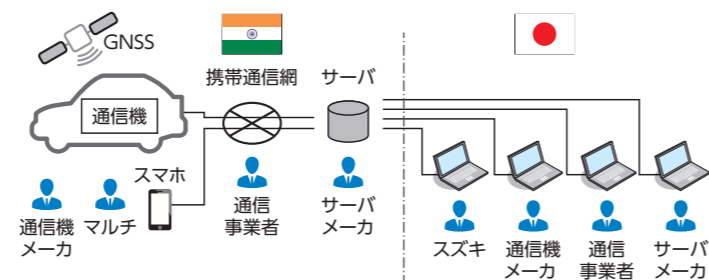
第二世代のコネクテッドサービスはグローバル共通の仕様で、今後、インド、ヨーロッパにも展開していきます。コネクテッドサービスの開発はインドの子会社マルチスズキの技術者と一緒に行っており、スズキの技術者も頻りにインドに行って現地での通信試験を行ってきました。しかし、2020年に入って、新型コロナウイルス感染症で海外への渡航が難しくなり、開発に対して大きな支障となりました。これに対しても、リモート技術を使い、スズキの技術者とマルチスズキの技術者だけでなく、日本、インド、ヨーロッパにいる車載通信機メーカ、コネクテッドサーバーメーカ、通信事業者をつなぎ、時差と闘いながらそれぞれの地域の開発を遠隔で行いました。コネクテッドサービスの開発には多くのパートナーの方々が関わっており、改めてこの場を借りて皆様方にお礼申し上げます。これからも通信技術は進化し続けていく領域で、大容量、低遅延、多接続を活用した新たなサービスを、引き続き多くのパートナーの方々と協力し開発していきます。



インドにおける携帯通信網の電波通信確認の様子



インドにおけるGPS受信性能確認



インド機種開発のリモートによる開発体制

農業用電動モビリティの取り組み

日本の農業は、人手や熟練者に頼る作業が多く、後継者減少などによる人手不足や農業従事者の高齢化が問題となっています。そのためロボットや情報通信技術を活用する「スマート農業」が注目されています。スズキは自動車産業で培った技術・ノウハウを農工連携に活かしていきたいと考え、2018年から牧之原市の農業ベンチャー「エムスクエア・ラボ社」と、農業向け電動台車の研究、開発をしています。ベースはスズキモーターチェア(電動車椅子)です。

Mobile Moverの主要諸元

項目		値	
寸法	荷台	長さ	(mm) 905
		幅	(mm) 600
		高さ	(mm) 500
台車重量(バッテリー含む)		(kg)	92
最大積載重量		(kg)	100
最高速度		(km/h)	6
連続走行距離 ^{※1}		(km)	39
駆動モーター		DC24V・210W×2個(30分定格出力)	
バッテリー		SC38-12(12V35AH)×2個	
駆動方式		後2輪直接駆動方式	

※1 連続走行距離は、常温(20℃)、使用者最大体重、満充電の新品バッテリーで平坦路を最高速度で連続走行し、バッテリー100%放電までの距離を示します。



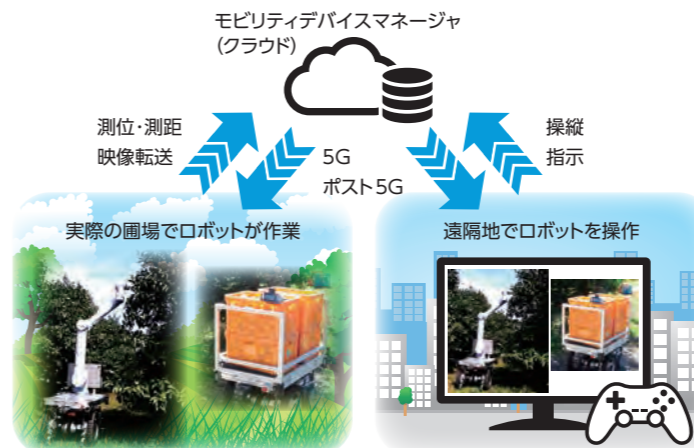
Mobile Mover



有線追尾するMobile Mover



ラジコン操作により農業を散布



高速通信により遠隔地で農作業

モーターチェアは、1974年から生産・販売している商品で、障害をお持ちの方々に使っていただいています。過去、一部大学等研究機関に試験用途で使われたことはありますが、福祉分野以外での活用はありませんでした。しかしユーザーに安心・安全に乗っていただけるよう長年培ってきた性能・品質が、農業分野にも活かせることが分かり、あたらしい事業に活かせる可能性が広がっています。

具体的には、モーターチェアの動力台車部分をそのまま活用し、椅子部分を荷台に取替え、タイヤをオフロード仕様に変更したものを電動台車として、2019年9月に“Mobile Mover”の名称で発表しました。

荷台に収穫物を詰めたコンテナ運搬や、農業散布の作業機等を載せることで、「スマート農業」のひとつである農業従事者の軽労化、更には少人化を目的とするものです。

軽労化には、“有線追尾”と“ラジコン”を、また少人化には、“自動運転(レベルは段階的に)”を目指して開発をしています。

.....
以下に現在の取り組みを紹介いたします。

【有線追尾】

モーターチェアで使用しているジョイスティックコントローラの先端に、犬の散歩に使うリードを取り付け、そのリードを引くことで、後を付いてくる機能です。

Mobile Moverは犬以上に従順に人に付いてきます。

【ラジコン】

ホビー用のプロポを使用し、無線で操縦します。見通しの良いところであれば200m離れていても操縦できます。これにより農業散布する際に、現場に近づく必要がなくなるので、作業者は羽等で体を守りません。

【自動運転】

電動台車に、測位・測距・映像を検知、送信できる装置を搭載してロボット化し、自動運転できるよう開発に取り組んでいます。センサとしてGNSS・デプスカメラ・LiDAR・単眼カメラ等を搭載し、まずはWiFi環境内で動かすことから始め、ゆくゆくは高速通信クラウド経由により、遠隔地で台車を操作出来るようにすることを考えています。これが実現できれば、現場に居なくても農業に従事できるようになります。ゲーム感覚で電動台車ロボットを操縦できれば、農業が楽しくなり従事者も増加するのではと期待しています。

スズキ、SUVの新型「S-CROSS (エスクロス)」を世界初公開

スズキは、クロスオーバー車の「SX4 S-CROSS」を全面改良したSUVの新型「S-CROSS (エスクロス)」を世界初公開しました。ハンガリー子会社のマジャールスズキ社で生産し、2021年末より欧州での販売を開始。中南米、大洋州、アジアへの輸出も順次開始しています。

「SX4 S-CROSS」は、2013年の発売以来、乗用車とSUVを融合させたクロスオーバー車として、欧州を中心に好評を得てきました。今回の全面改良にあたって、新型「S-CROSS」はSUVらしいスタイリング、快適性、様々な情報を表示するディスプレイオーディオ、スズキ独自の四輪制御システム「ALLGRIP (オールグリップ)」による走行性能と安全性を兼ね備えました。

技術

- 燃費優先や雪道走行など運転環境に合わせて走行モードをダイヤルで簡単に選択できる「ALLGRIP」を採用。
- 欧州仕様車には、全車48ボルトSHVSマイルドハイブリッドを採用。燃費抑制はもちろん、アクセル操作に応じてエンジントルクにモータートルクを上乗せするという加速補助も可能としました。
- 衝突被害軽減ブレーキ、標識認識機能、車線逸脱抑制機能、全車速追従機能付アダプティブクルーズコントロールなどの運転支援機能に加え、全方位モニターや後退時車両検知警報などの駐車支援機能も充実させました。



GLX



GL+

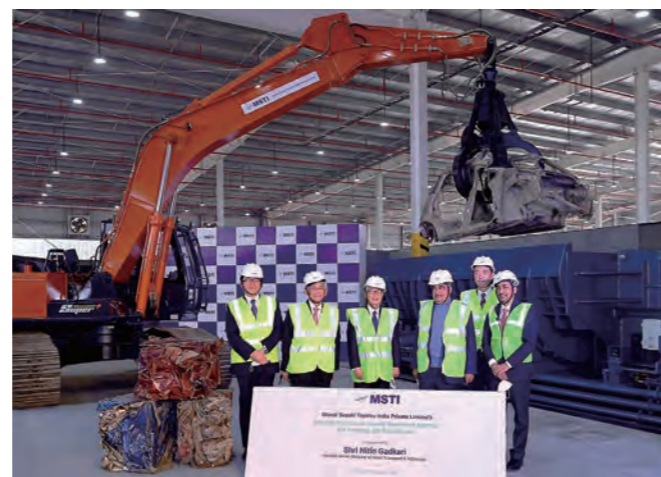
写真:欧州仕様車

環境対策の先頭をきる欧州向けには、既に乗用車全てにハイブリッドを採用していますが、2022年よりストロングハイブリッドモデルのラインアップを強化します。ストロングハイブリッドモデルには、駆動用モーターとオートギヤシフトを組み合わせたスズキ独自のシステムを採用し、2022年初めより欧州向け「ビターラ」に搭載し、続いて同年後半より新型「S-CROSS」に搭載する計画です。

使用済み車両の適正処理および解体・リサイクルを行うマルチ・スズキ・インドの合併会社が稼働開始

スズキのインド子会社マルチ・スズキ・インド社(以下 マルチ・スズキ)が、豊田通商株式会社および豊田通商グループのToyota Tsusho India Private Limitedとともに設立した、使用済み車両の適正処理および解体・リサイクルを行う合併会社、Maruti Suzuki Toyotsu India Private Limited(以下 MSTI)が、2021年11月23日に稼働開始しました。

MSTIは、使用済み車両の仕入れから解体、廃液の抜き取りなどの適正処理、解体を行い、処理されたスクラップを素材として販売します。将来的には当該施設で月間2,000台の処理台数を目指します。使用済み車両を適正に処理することにより、車両や部品の不法投棄を減らし、地球温暖化や土壌汚染・水質汚濁といった環境問題にも対応していきます。



開所式にはインドのニティン・ガドカリ道路交通・高速道路大臣をはじめ、鈴木哲駐インド日本国特命全権大使およびマルチ・スズキの鮎川堅一社長、MSTIの赤石優社長らが出席しました。

スズキ、はままつフラワーパークで、あるときは歩行補助、あるときは乗って移動できる電動アシストカート「KUPO」の試験運用を開始

スズキ株式会社は、浜松市及び公益財団法人浜松市花みどり振興財団と連携し、昨年11月29日から12月下旬まで、はままつフラワーパークでスズキが開発した電動アシストカート「KUPO (クーポ)」の利便性を検証する試験運用を実施しました。

「KUPO」は、歩行を補助する電動アシストカートから、乗って移動できる電動車いすにもなり、生活を支援し歩く楽しさを提案する「歩く・広がるモビリティ」として開発された活動支援モビリティです。



電動歩行補助具として、また、電動車いすとして使えます。

2018年に初代コンセプトモデルを発表して以来、改良を重ね、現在のモデルは4代目となります。

体験試乗等を通して、幅広いお客様より直接ご意見を伺い、「KUPO」や今後の商品開発に結び付けてゆきます。



GOOD DESIGN AWARD 2021
グッドデザイン金賞

公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2021年度グッドデザイン賞」において、「グッドデザイン金賞(経済産業大臣賞)」を受賞しました。

スズキの大型二輪車「KATANA (カタナ)」の名称が天竜浜名湖鉄道フルーツパーク駅の副駅名に採用

スズキの大型二輪車「KATANA(カタナ)」の名称が、天竜浜名湖鉄道株式会社(以下、天竜浜名湖鉄道)のフルーツパーク駅の副駅名(愛称名)として、2021年12月7日から2024年3月31日まで採用されます。

この「フルーツパーク(KATANA)駅」は、天竜浜名湖鉄道による駅名ネーミングライツスポンサー募集に、株式会社スズキ二輪が申し込み、スポンサー契約を締結して実現したものです。フルーツパーク駅は、KATANAユーザー向けのイベント「KATANA Meeting」の開催地である「はままつフラワーパーク時之栖(静岡県浜松市)」の最寄り駅です。

「KATANA(カタナ)」は、燃料タンクから車体先端までシャープで流れるような、ひと目で「KATANA」とわかるデザインに、高い基本性能と扱いやすさを両立させた大型二輪車で、2019年5月に国内で発売を開始して以降好評を得ています。

天竜浜名湖鉄道とスズキによるタイアップは、2019年9月より継続しているKATANAラッピング列車の運行に続くものであり、契約期間中、フルーツパーク駅に「KATANA」の副駅名が付くことから、鉄道利用者だけに限らず、広く「KATANA」をアピールすることでブランド力の拡大を図り、新たなファン獲得を目指します。

フルーツパーク
【KATANA】

◀ 都田 (浜松市北区都田町) 宮口 ▶



デジタルエンジニアリング 部の若手技術者たち

デジタル技術を使った新しい車づくりに携わる若手技術者たちのメッセージをご紹介します。

デジタル技術グループ

3D CADを使いデジタルモックアップ(DMU)と呼ばれる自動車一台分のデータを作成して、VRやCGなど新技術の開発や導入も行いながら新型車の開発・生産・販売など様々な場面での活用を推進しています。



IT技術を活用した業務効率化
新妻 朋奈
利用部門が楽に作業できるように、設計、生産部門向けの3Dデータを用いたソフトの運用やCADのカスタマイズコマンド作成を行っています。一筋縄ではいかない部分もありますがやりがいのある業務です。

CADに関わる最先端のデジタル技術を用いて、車両開発の効率化に取り組んでいます。実物が無い開発初期段階からバーチャルでの検証を行い、品質の高いクルマ作りを推進しています。

設計DMU管理

沖津 直弥



VRを活用した設計/生産技術部門の支援

加藤 華歩

最新技術であるVR(VirtualReality)を活用して、実際の車両が出来上がる前に問題点や懸念点の確認を行っています。一番の魅力は、まだ世に出ていない車両を実寸サイズの3Dデータでいち早く体験できることです。

CADデータからカタログや動画で使用できるCGを作成しています。どのような画角や質感が良いかこだわりを持って作業しており、CGから作成した画像や動画が実際に使われていると達成感ややりがいを感じます。

車両CGの作成

和山 岬

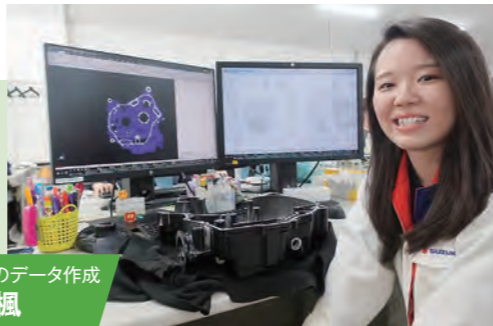


CADデータで乗員レイアウト検討

設計および製造に用いる車両部品の3Dモデルと図面を作成しています。壁にぶつかることもあります。そのハードルを乗り越えて目標を達成したときには大きな充実感があります。

二輪エンジン部品のデータ作成

杉浦 楓



二輪車の外観向上

渡邊 駿介

二輪車の美しい外観を実現するために、3Dスキャンを用いてチェックと改善提案を行っています。実車をデータで可視化し、外観向上のために提案する過程は非常に楽しいです。



製品3Dデータ作成グループ

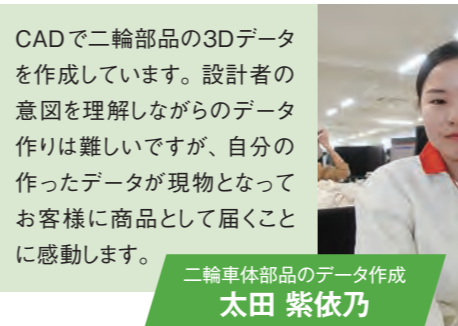
CAD、3Dスキャナ、3Dプリンタなどデジタル技術を駆使し、高品質な車を一早くお客様にお届けできるように、デザイン/設計/生産技術部門と協力して効率的な車づくりに挑戦しています。

二輪車体部品のデータ作成

大久保 真帆



バイクの設計図面や、実車の測定データをもとにした3Dモデルの作成を行っています。日々新しいことに挑戦できる環境の中、自分の経験や技術を生かし成長していけることにやりがいを感じます。



CADで二輪部品の3Dデータを作成しています。設計者の意図を理解しながらのデータ作りは難しいですが、自分の作ったデータが現物となってお客様に商品として届くことに感動します。

二輪車体部品のデータ作成

太田 紫依乃

CAE推進グループ

高品質なクルマやバイクを早く、効率よく作るために、CAE(Computer Aided Engineering)やAIといった解析技術を使ったデジタルなモノづくりを、スズキ社内に推進しています。

構造解析を行いエンジンの信頼性や耐久性を評価しています。エンジンの性能が上がった時、複雑な現象を解析できた時、問題解決できた時にやりがいを感じます。

エンジン構造解析

渡辺 直人



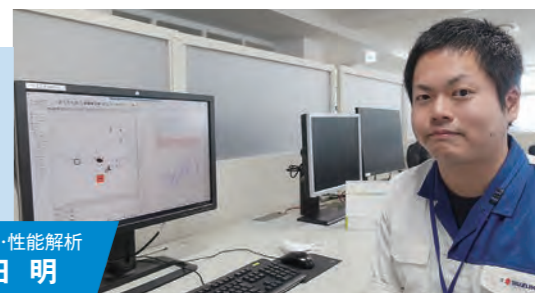
車両・エンジン流体解析

田村 祥平

車両周りの流れやエンジンの燃焼といった車にまつわる流れの解析を行い、形状検討や課題解決を行っています。自分の想像したものを具現化し、性能の検討を行う楽しさがあります。

システム・性能解析

長田 明



IT技術を活用して二輪車のフレームやエンジンに関する技術を開発しています。二輪車開発にこれまで用いられていなかった機械学習を導入するなど、新しいことにも挑戦しています。

IT技術を活用した二輪車開発

片野 幹人



冠水路走行時の水流れの解析

数理最適化とAIを用いた アーク溶接条件の導出

数理最適化による溶接条件の導出

AIによる溶接継手の形の判定

評価マップによる溶接しやすさの可視化

背景・狙い

アーク溶接は四輪車、二輪車のフレームに多く使用される接合方法です。適切な溶接を行うためには、溶接継手の形状に応じた溶接条件（電流、電圧、溶接速度など）で溶接する必要があります。溶接条件は過去の経験から導いており、ベテランの作業員でも現物による試作の繰り返りに頼っている部分が多く、多くの時間とコストがかかっています（図1）。そこで、試作を繰り返すことなく最適な溶接条件を導出できる技術を開発しました。

最適な溶接条件を導出する手法の開発

アーク溶接は、接合する母材と電極ワイヤの間に電圧をかけることで、アークと呼ばれるプラズマの一種を発生させ、この熱で金属を溶かして接合します（図2）。品質の高い接合を行うには、電流、電圧、溶接速度などの溶接条件が適切である必要があります。

今回、3D CADの継手形状から、数理最適化とAIを用いて少ない試作回数で適切な溶接条件を導く技術を開発しました。

数理最適化による溶接条件の導出

溶接実験で得たデータベースをもとに種々の継手形状に対する溶込み（溶込み深さや幅、図3）の予測式を求め、数理最適化手法を用いて最適な溶接条件を導出することを考えました。

溶接条件の導出フローを説明します（図4）。始めに、CADソフトで溶接箇所を選択し、溶接箇所の形状の情報（板厚・角度など）を取得します。次に、形状の情報と溶接条件を変数とし、予測式を用いて溶込みの深さや幅など接合の強度に関わる溶込み量を計算します。最後にこれらの溶込み量が最適な値になる溶接条件を数理最適化により求めます。これにより、溶接箇所のカADモデルから最適な溶接条件を導出できるようになりました。

数理最適化： $y=f(x)$ という関数があった場合、 y が最大もしくは最小となる x を求めます。ここでは、溶込み量の規定値に対する達成度を y 、電流・電圧・溶接速度といった溶接条件を x とし、 y が最大となる x を求めました。

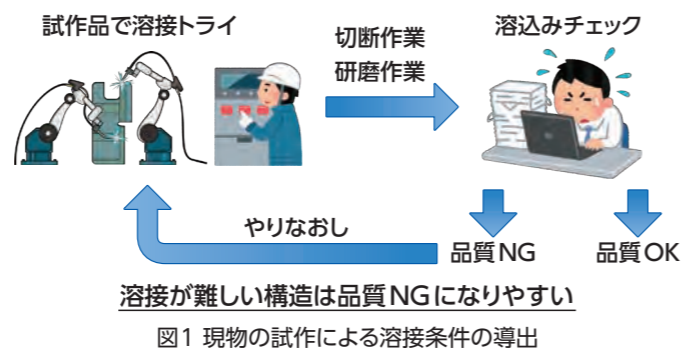


図1 現物の試作による溶接条件の導出

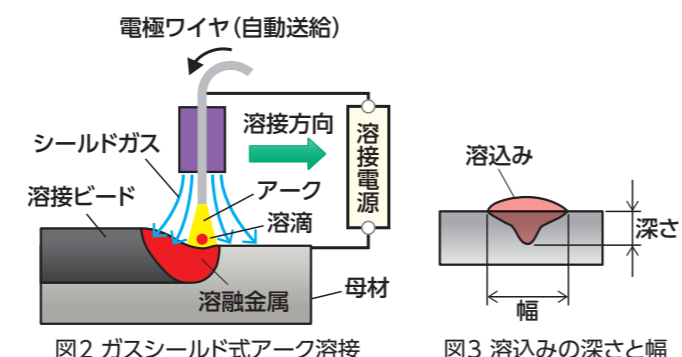


図2 ガスシールド式アーク溶接

図3 溶込みの深さと幅

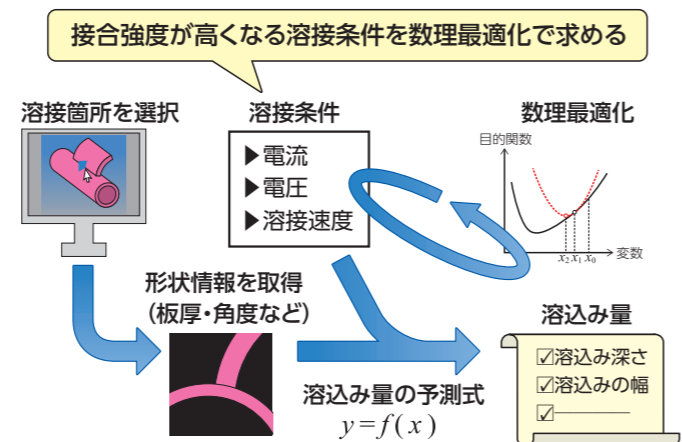


図4 数理最適化で溶接条件を導出するフロー

AIによる溶接継手の形の判定

溶接継手の形はT継手・重ね継手・フレア継手など複数あるため、継手の形によって溶込みの予測式を使い分ける必要があります。しかし、一見するとどの種類の継手なのか判断が難しい継手も存在し、予測式を間違った継手に当てはめて使ってしまう恐れがあります（図5）。そこで、人による判断の間違いを防ぐため、CADの断面画像から溶接継手の形を自動で判定するAIを開発しました。AIには畳み込みニューラルネットワークを用い、90%以上の精度で溶接継手の形を自動で判定できました（図6）。

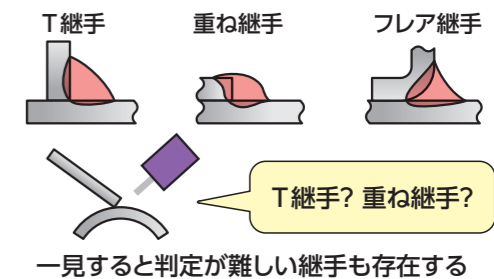


図5 溶接継手の種類

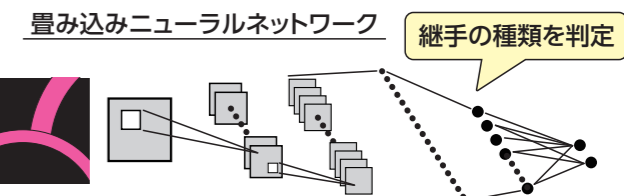


図6 継手の種類を判定するAI

評価マップによる溶接しやすさの可視化

これまでの取り組みで、最適な溶接条件を導出する手法は開発できましたが、その継手の溶接しやすさまでは評価できません。例えば、溶接条件が少しでも変動すると品質が悪くなるような継手では、安定した溶接ができません。そこで、最適化の応答曲面を評価マップとして可視化するようにしました（図7）。品質OKとなる溶接条件の領域は明るく表示され、領域が広いほど溶接しやすさをマップとして視覚的に見せることで、誰でも安定した溶接が行える継手構造を検討しやすくなりました。

応答曲面：最適化の関数 $y=f(x)$ において、目的変数 y と変数 x の関係を描く曲線や曲面を応答曲面といいます。

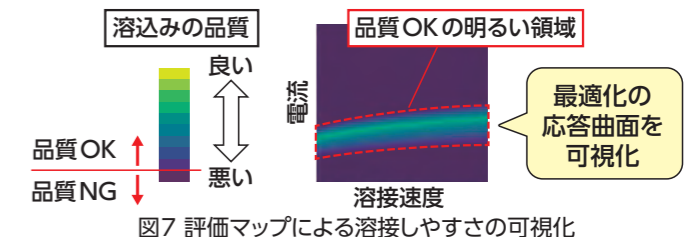


図7 評価マップによる溶接しやすさの可視化

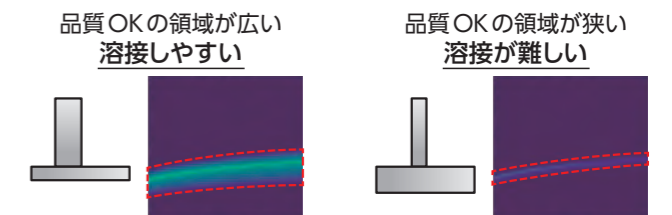


図8 継手形状による溶接品質の評価マップの違い

技術課題

近年の自動車の電動化や安全技術の向上に伴い、車両開発で検討すべき性能・要件が増えてきており、限られた期間で効率良く開発する必要があります。今回、生産技術とIT部門が協力し、量産開始前の溶接条件の検討にかかる時間とコストを削減する技術を開発しました。今、我々は次なる課題として、溶接のバラつきが

強度信頼性へ及ぼす影響も同時に検討できる手法に挑戦しています。これからも様々な部門と連携し、AIと最適化の技術を活用して車両開発の効率化に取り組んでまいります。大学の先生方とも、新しい技術がありましたら一緒に取り組んでいきたいと思っております。

著者紹介

- | | | | | | |
|--------------------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|---|
| | | | | | |
| 安座間 尚之
デジタルエンジニアリング部
(2015年入社) | 生田 貴大
デジタルエンジニアリング部
係長
(2008年入社) | 岩下 一品
ものづくり推進部
専門職
(1983年入社) | 岡本 努
ものづくり推進部
係長
(1987年入社) | 福川 孝司
プレス・溶接生産部
(2004年入社) | 佐藤 崇雄
デジタルエンジニアリング部
係長
(2008年入社) |



公益財団法人
スズキ財団

<https://www.suzukifound.jp/>



機械工業の発展を願って

スズキ財団は、日本の社会の発展に貢献してきた機械工業の飛躍のため、科学技術に関する研究に従事する全国の大学、大学院、高等専門学校及び、公的研究機関の研究者を支援しています。

設立 スズキ株式会社創立60周年を記念して、1980年3月に設立されました。

活動実績 これまでの41年間で、全国の研究者の皆様や海外からの研究留学生に累計1,855件、総額22億5,459万円の研究助成を実施しました。

また、財団創立40周年を記念して、顕彰事業として「やらまいか大賞・特別賞」を創設しました。

総資産 113億7,190万円(2021年3月末)



公益財団法人
スズキ教育文化財団

<https://www.suzuki-ecfound.com>



青少年の健全育成を目指して

スズキ教育文化財団は、静岡県内の高校生や静岡県出身の大学生に対する返済不要の奨学金給付や特別支援学校で学ぶ子どもたちが使用する物品の寄贈、外国人学校で学ぶ児童・生徒への支援を行っています。

設立 スズキ株式会社創立80周年を記念して、2000年10月に設立されました。

活動実績 これまでの21年間で、471名に、総額3億6,528万円の奨学金を、特別支援学校に総額3,117万円の物品をお届けすることができました。

総資産 46億6,566万円(2021年3月末)



公益財団法人
鈴木道雄記念財団

<https://www.smmfound.suzuki>



社会福祉の向上・スポーツの普及振興に貢献します

鈴木道雄記念財団は、社会福祉法人への福祉車両等の寄贈、児童・青少年に対するスポーツの普及・振興事業への助成を行っています。

設立 スズキ株式会社の創業者鈴木道雄の遺徳を偲び、鈴木家が同社株式25万株を寄付して2018年1月に設立されました。

活動実績 これまで、静岡県内の社会福祉法人20団体に福祉車両を寄贈したほか、スポーツ指導者の育成や児童・青少年がスポーツにかかわる機会の創出を行う団体に1,357万円の助成を行いました。

総資産 12億8,746万円(2021年9月末)



静岡県西部にはこの地域の方言で、「とにかくやってみよう」「やろうじゃないか」という意味の「やらまいか」という言葉があります。

これは、遠州人の「あれこれ考え悩むより、まず行動しよう」という進取の精神を表すものと言われ、チャレンジ精神を大切にする風土を育てています。

これを合言葉に、自動車産業や楽器産業、オートバイ等々世界を代表する企業を輩出してきました。

やらまいか 2022 January Vol.13

発行日:2022年1月

<https://www.s-yaraimaika.jp/>



発行/スズキ株式会社
編集責任者/山岸 重雄

スズキ株式会社 本社:〒432-8611 静岡県浜松市南区高塚町300 ホームページ: <https://www.suzuki.co.jp/>

公益財団法人 スズキ財団:〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目2番8号 Email: zaidan-info@hhq.suzuki.co.jp

表紙題字/平形 精一(静岡大学名誉教授)